

1. 本園の教育目標

- 設立母体であるカトリック守護の天使の姉妹修道会の教育方針に沿って、園と家庭が一体となって、あたたかい宗教的雰囲気の中で幼児の基本的生活習慣を身に付け、望ましい人間形成の基礎づくりを目指す。
- 教育理念の基本である『素直な心』『思いやりの心』『頑張る心』『祈る心』『感謝の心』を大切にして、神様が私たちを愛してくださっていることを知り、一人ひとりを大切にした保育を通して、そのいのちと心の輝きを育てる。
- 幼稚園生活を楽しみ、充実感を味わいながら様々な活動に自分から進んで取り組み、将来どんな試練にも立ち向かい乗り越えていく「生きる力」を養う。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 教育課程・指導計画の見直し
- ② 教職員の資質の向上
- ③ 健康・安全管理
- ④ 子育て支援の充実
- ⑤ 組織の運営

3. 評価項目の達成および取り組み状況

【評価の基準】

A 十分達成されている B ほぼ達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取り組みが不十分である

課題	取組状況	具体的な取り組み
① 教育課程・指導計画の見直し	B	○全教職員が、幼稚園教育要領の5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(10の姿)の理解を深め、生きる力の基礎を育てることを意識した指導計画を再編成していく。結果として、全教職員がたくさんの種類の研修会に参加し、様々な分野の理解のもと、指導計画に活かすことができるようになってきた。
	A	○支援を必要とする子どもたち一人ひとりが、どのようなことに困難さを抱えているのか、また、どのような支援を必要としているのか、理解を深め、それに教職員が寄り添い共に生きる視点に立ち、療育先とも連携をはかり、特別支援児についての理解を深めていく。結果として、いくつかの療育先との連携を持つことができた。また、必要に応じて、吹田市支援センター相談員、療育機関、小学校支援級担当教員、幼稚園、保護者を含めたケース会議を行い、小学校への接続に向けて情報を共有することができた。毎学期ごとに特別支援に関しての園内研修を行い、理解を深めることができた。
	C	○運動遊び、英語遊び、楽器遊びに加えて、絵本の読み聞かせも取り入れ、バランスのよい指導計画を策定する。結果として、ややプログラムに追われる場面もあり、再度、指導計画を見直すことが求められた。

② 教員の資質の向上	A	○分野別トップリーダー・学年主任を中心に、若手の育成にしっかりと取り組み、若手教員が幼稚園教諭の仕事の楽しさや充実感を感じられるように援助する。また、縦のつながりをしっかりと持ちながら、若手教員の悩みにより沿い、適切なアドバイスを行う。結果として、若手教員が育ち、主体的に仕事に取り組む姿が見られた。 ○リーダーであることの自覚を持ち、園行事の見直し、若手の育成など、園全体を見ながら行事や保育計画を考える力をつけていく。取り組みの結果として、リーダー会議において、来年度は行事を大きく変更し、新たなカリキュラムの中、保育計画を立てることとなった。
	B	○保育後の業務に関する時間の使い方の見直し、園のICT化を進めてきたが、教職員の労働時間を各々が守る意識を持ち、有効な時間の使い方を身につけていく。結果として、時間の使い方が身につけてきたが、行事などが近づいてくると遅くなる日もあり、引き続き、効率よく業務が行えるように取り組んでいく。
	A	○園内研修を実施し、各学年の指導計画の見直しを行い、教員の指導力の向上を目指す。結果として、学年ごとにテーマを決めて園内研修を行い、その後、それぞれの学びを全体で共有することができた。 ○学期ごとに全教職員が園内研修に参加し、一人ひとりがカトリックさゆり幼稚園の教職員としての役割に気づき、資質向上に努めていく。取り組みの結果として、今年度は、特別支援の研修、音楽研修を行った。今後、他分野の研修も参加していく。
③ 健康・安全管理	A	○子どもの命を守る教育(火災・地震・防犯・交通安全・)の充実を図り、安全意識を高めて園児自身が意識して行動できるように練習を積み重ねていくと共に、教職員も対応力を身につけていく。結果として、毎月、訓練を行うことができたが、来年度は消火訓練も加えて計画を立てる。
	A	○園生活の中で、流行性の病気(マイコプラズマ・新型コロナウイルス感染症・インフルエンザなど)や安全面・衛生面に考慮した指導を教職員全体で共通理解しながら取り組む。結果として、流行性の病気が流行りだした時は教職員全員で共通認識ができるように報告し、その都度、感染予防対策を行った。
	A	○エピペン講習会の実施・アレルギー対応の知識向上と共通理解に努める。結果として、計画通り、エピペン講習会を行った。
	B	○新しく改定した危機管理マニュアルをしっかりと理解し、子どもの安全な園生活のために、あらゆる危機に対応できるように、共通理解を図る。結果として、危機管理マニュアルを分野毎に配布し、教職員一人ひとりが確認できるようにした。
④ 子育て支援の充実	A	○満3歳児クラス入園前の準備クラスを充実させ、6月からの満3歳児クラスの子どもたちがスムーズな園生活をスタートできるように計画する。結果として、スムーズに満3歳児クラスを始めることができた。
	A	○さゆりエンジェル A コース(親子分離をしたクラス編成のコース)、B コース(親子教室、親子の触れ合いの場)、園庭開放のそれぞれの参加人数枠を増やし、引き続き、英語遊びや読み聞かせ、WARA リズムも取り入れながら、内容を充実させていく。結果として、たくさんの方にさゆり幼稚園のことをしてもらおう機会を持つことができた。
	C	○子育て何でも相談室を継続し、子育てに悩む保護者が気軽に相談できる場を作り、より多くの保護者に寄り添える体制作りを目指す。結果として、利用者が少なかったため、もっとたくさんの方に参加してもらえるような取り組みを考えていく。
	A	○1,2歳児の親子を対象に、友達作りの場、育児に悩む保護者に寄り添う場として「こひつじクラブ」を継続していく。結果として、たくさんの参加は頂けた。今後もさゆり幼稚園の良さを知ってもらうために継続していく。

⑤ 組織の運営	A	○ホームページに加えて、インスタグラムも活用して、様々な取り組みの発信を行い、多くの人にカトリックさゆり幼稚園の取り組みを知ってもらい、さゆり幼稚園を身近に感じてもらえるように広報活動の拡充を図る。結果として、非常にたくさんの方に見て頂き、知っていただくことができ、海外からの編入にもつながった。
	B	○保育後の業務に関しての時間の使い方を見直し、教職員の労働時間を各々が守る意識を持ち、有効な時間の使い方を身に付け、作業効率を上げる。結果として、早く業務を終わる日も増えてきた。しかし、もっと効率良く業務を行うための工夫を続けていきたい。
	B	○各分掌を明確化し、皆がリーダーシップを発揮できるような体制作りを目指す。結果として、分担して業務を行うことができたが、一人ひとりの力がもっと発揮できるような体制を構築していきたい。
	C	○さゆり幼稚園が60周年を迎え、全教職員が共通の目的(建て替え)に向かって歩めるように、さゆり幼稚園のビジョンの可視化を図り、一人ひとりがカトリックさゆり幼稚園の教職員としての役割に気づき、資質向上に努めていく。結果として、建て替えの話が現時点で具体化していないため、今後も継続して取り組んでいく。
	B	○園舎建て替えに向けて、保護者に安心してもらえるようにしっかりと説明を果たしていく。結果として、入園説明会や、保護者からの質問に対しては、現段階での進捗状況について説明してきたが、今後も丁寧に説明をして安心して園生活を送ってもらえるように取り組んでいく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合評価	理由
B	○2024年度は多くの園行事を保護者の方に制限なしで来園して頂くことができた。また、一年を通して、今までと変わらず、どのような中でも子どもたちの安全を第一に考え、園運営を行ってきた。これからも想定外のことが起きたとしても、子ども達のことを第一に考えて、子どもの成長につなげていきたい。 ○子ども達の主体性を身につけるための保育、遊びを中心とした活動と設定保育とのバランスを考えながら、保育計画を立てることができた。その中で、今の気候変動の影響、子どもたちの体力も鑑みて、行事の再編について度々の話し合いを重ね、検討してきた結果、来年度より、大きく行事の改編に取り組むこととなった。幼稚園育要領の5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(10の姿)をしっかりと理解して、保育計画の中に組み入れていきたいと考えている。 ○今年度も、多くの教職員が研修に参加し、中堅以上の教員はマネジメント分野の研修も受けることができた。今後はその研修で得たことを日々の業務の中に活かせるように取り組んでいきたい。 ○日々の保育の準備は効率的に行えるようになってきているが、今後も継続して業務時間内に業務が終われるように時間の使い方を一人ひとりが意識していく。 ○建て替えを公表したためか、未就園児募集の結果がかなりの減少となった。建て替えの状況の説明を丁寧に言い、保護者に安心して通園してもらえるように取り組んでいく。 【年度末アンケートの結果】 ○カトリックさゆり幼稚園は心の教育を大切にして、「素直な心・思いやりの心・頑張る心・祈る心・感謝の心」が育つよう心掛けていくという設問に対して、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えられた方が、満3歳児を含めた4学年で99.7%となり、非常に高い評価を得ることができた。しかし、実際の子どもの心の育ちの設問に対しては、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えられた方が96%あり、昨年度の94.2%より1.8%増加したが、今後も引き続き、心の教育を大切にして、日々取り組んでいきたい。 ○「本園に入園させて満足している」という設問に対し、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えられた方が、昨年度に続き、満3歳児クラスも含めた4学年で100%という結果となり、非常に高い評価を得ることができた。これからも保護者に満足して頂ける幼稚園として歩んでいきたいと思う。 ○今回のアンケート結果で頂いた意見の中の改善すべき点について、今後検討し、改善できることは取り組んでいく。

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
① 教育課程・指導計画の見直し	○本園の教育理念の基本でもある5つの心「素直な心・思いやりの心・頑張る心・祈る心・感謝の心」の5つの心を大切に、日々の保育の中で『心の教育』をさらに深め、また、子どもたち一人一人が愛すること、愛されることの喜びを実感し違いを認め合う心を大切に、安心して園生活を送れるようにする。 ○支援の必要な子ども達一人ひとりが自分らしく生きていけるように、個別の支援計画を策定し、療育先とも連携をはかり、特別支援児についての理解を深めていく。 ○年間行事予定の改編に伴い、指導計画を見直し、その中に、運動遊び、英語遊び、楽器遊びに加えて、絵本の読み聞かせを取り入れ、3年間、または4年間を見通した指導計画を策定する。
② 教職員の資質の向上	○全教職員が外部講師による園内研修や園外の様々な研修に参加し、専門性の向上をはかる。特に、カトリック研修に全員が参加し、カトリック教育の理解を深める。 ○学年主任や分野別トップリーダーを中心に縦・横のつながりを大切に、教職員が自由に保育の悩みや意見が言い合える環境作りを引き続き目指す。 ○保育後の業務に関しての時間の使い方を意識し、効率よく仕事に取り組めるように工夫をする。 ○学期ごとに教職員主体の園内研修を実施し、各学年の指導計画の見直しを行い、教員の指導力の向上に努めていく。
③ 健康・安全管理	○子どもの命を守る教育(火災・地震・交通安全・不審者対応など)の充実を図り、安全意識を高めて園児自身が意識して行動できるように援助する。また、年2回の消火訓練を行う。 ○園生活の中で、流行性の病気や安全面・衛生面に考慮した指導を教職員全体で共通理解しながら取り組み、保護者にも毎月の保健だよりで知らせていく。 ○遊具などの安全点検を行う中で、気付いたことがあればすぐに報告し、適切に対応する。
④ 子育て支援・未就園児クラスの充実	○一時預かり事業(幼稚園型Ⅱ)の開設に伴い、仕事を持つ保護者にも寄り添い、安心して利用してもらえるよう取り組んでいく。また、乳児の保育についてもしっかりと学びを深めていく。 ○さゆりエンジェルAコース(親子分離をしたクラス編成のコース)、Bコース(親子教室、親子の触れ合いの場)、園庭開放に加えて、新しく「遊びにおいて」を計画し、たくさんの人に参加してもらい、さゆり幼稚園の入園につなげていく。 ○子育て何でも相談室を今年度も継続し、子育てに悩む保護者が気軽に相談できる場を作り、より多くの保護者に寄り添える体制作りを目指す。
⑤ 組織の運営	○さゆり幼稚園の建て替え計画を保護者にも伝え、今後の幼稚園の保育が今まで同様、安心安全な場であることを伝えていく。 ○全教職員が建て替えという共通の目的に向かって歩めるように、さゆり幼稚園のビジョンの可視化を図り、一人ひとりがカトリックさゆり幼稚園の教職員としての役割に気づき、資質向上に努めていく。 ○若手教員が安心して保育をすることができるようサポート体制を構築する。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。